

修士論文（要旨）

2015年7月

認知症高齢者の「徘徊」に対する介護職のケアのプロセスに関する研究

指導 白澤 政和 教授

老年学研究科

老年学専攻

213J6905

中野 恵

Master's Thesis (Abstract)

July 2015

A Study of the Process of Caring for “Wandering” Dementia Patients by Care Workers

Kei Nakano

213J6905

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor : Masakazu Shirasawa

## 目次

I : 緒言	1
1. 研究の背景	1
2. 先行研究	3
3. 研究の目的	4
II : 研究方法	5
1. 調査対象者	5
2. 調査方法	5
3. 倫理的配慮	5
4. 分析方法	6
III : 研究結果	6
1. ストーリーライン	6
2. カテゴリーと概念の詳細	10
IV : 考察	28
- 今後の課題 -	
V : 結語	30

### 【謝辞】

### [引用文献]

### [資料]

表 1 調査対象者の基本属性	I
表 2 インタビューガイド	II
図 1 認知症高齢者の「徘徊」に対する介護職のケアのプロセスの結果図	III

分析ワークシート集

## I：緒言

認知症高齢者の増加に伴い、平成 27 年 1 月より各関係府省庁が連携し、「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を策定し、認知症高齢者等に優しい地域づくりに向けて動きだしている。これは今までのオレンジプランと同じく、これから増え続ける認知症高齢者意思を尊重しながら、できるだけ限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることが出来る社会の実現を目指すことを基本に、在宅中心のケアを進めていくものである。ところが、認知症高齢者の周辺症状（BPSD）としての「徘徊」は行方不明や虐待などのトラブルの原因となり、家族に支えられながら在宅において認知症高齢者が生活をつづけるにも困難となるケースが多い。しかし、「徘徊」は不安や焦りを緩和できるような適切なケアによって出現頻度が減り、改善できるものであると考え、介護の専門職がどのようなアプローチをしているのか、そのケアの方法を検討することを目的とする。

## II：研究方法

調査対象者は、徘徊する認知症高齢者に対応経験がある、介護福祉士の資格を有し、有してから 3 年以上の経験を有する介護老人福祉施設の介護職を対象とした。桜美林大学の倫理委員会の承認（受付番号 14052）を得たうえで、介護老人福祉施設の施設長より調査対象者の推薦を受け、同意を得られた 6 名に対し、半構成化面接法による個別インタビューを行った。分析にあたっては、木下の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用い、ICレコーダーに録音されたデータから逐語録を作成した。

## III：結果

6 名の逐語録から 38 の概念を抽出し、7 つのサブカテゴリーと 8 つのカテゴリーを生成した。その関係から、認知症高齢者の「徘徊」について明確な【施設の理念】をもつ介護老人福祉施設で働く介護職員は、「徘徊」を問題行動であると決めつけず、徘徊活動を止めることがないよう、【徘徊ケアに対する態度】や【入所者に対する態度】によりケアを提供している。また、【家族との連携】を取りながら、多職種との【チームケアの視点】で協働しながら、その人らしく自立した生活ができるように支援している。このようなケアは、入所者の【個別ケア計画の準備】の段階から【個別ケア計画の作成・実施】を経るすべての時点で継続され、目標である、改善と落ち着いた暮らしという【個別ケア計画の評価】に到達するというストーリーラインに至った。

## IV：考察

今回の結果から、長年の経験と知識を蓄積した徘徊ケアに実績のある介護職は、徘徊行動を制止するのではなく、徘徊の原因を探り、そのきっかけを取り除き、個別ケア計画に沿いながら本人を取り巻く環境等から、そして本人の気持ちを受容し共感する総合的なケアによって、改善へと導いていた。これは徘徊のケアに対して明確な方針を持つ介護福祉施設の理念とも合致している。徘徊行動を本人らしい活動であると受け止め、本人に寄り添い理解を深め、信頼関係を構築することにより、落ち着いた日常生活へと変化していた。この介護職の視点によるケアが、在宅の家族介護者のケアの提案となることが期待できる。

【引用文献・参考文献】

1. 認知症サポーター養成講座標準教材：「認知症を学び地域で支えよう」 全国キャラバン・メイト連絡協議会 p2,2013
2. 厚生労働省研究班調査（代表者・朝田隆筑波大教授） 2013. 6.1
3. 厚生労働省資料『「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数について』2012.8
4. 厚生労働省資料 「第 19 回 新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム」 2011.7.26
5. 厚生労働省老健局高齢者支援課資料 「特別養護老人ホームへの入所申込者の状況」 2014.3.25
6. 厚生労働省老健局高齢者支援課資料 「認知症高齢者の居場所別内訳」 2010.9
7. 内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」 2012
8. 厚生労働省「国民生活基礎調査」 2010
9. 総務省「就業構造基本調査」 2012
10. 国立社会保障・人口問題研究所 「日本の世帯数の将来推計」 2013.1
11. 財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構「家庭内における高齢者虐待に関する調査報告書」 2004
12. 厚生労働省 精神疾患データ 「精神病床入院患者の疾病別内訳」 2014.4/14
13. 厚生労働省 「医療計画（精神疾患）について」 2012.4.1
14. 国際老年精神医学会：「認知症の行動と心理症状」,第 1 版,36, アルタ出版(2005)
15. 国際老年精神医学会：「認知症の行動と心理症状」,第 1 版,28-29, アルタ出版(2005)
16. 国際老年精神医学会：「認知症の行動と心理症状」,第 1 版,38, アルタ出版(2005)
17. 日本経済新聞：「介護の妻 過失認定 JR への賠償」 2014. 4. 25
18. 日本経済新聞：「認知症不明者照会見落とす 兵庫県警」 2014.4.23
19. 日本経済新聞：「利用者宅外側から施設 神戸市が 2 介護事業所を処分」 2013.6.3
20. 堀川 茂野：警察における福祉的側面について一徘徊認知症高齢者の保護を中心に一、法政 43(1),139-157,2006-11-15
21. 警察庁生活安全局生活安全企画課「H25 年中における行方不明者の状況」
22. 国際老年精神医学会：「認知症の行動と心理症状」,第 1 版,36, アルタ出版(2005)
23. 小澤 勲：「認知症とは何か」,第 16 版,151,岩波新書 2013
24. 国際老年精神医学会：「認知症の行動と心理症状」,第 1 版,98, アルタ出版(2005)
25. 室伏 君士：「認知症老人の理解とケア」,第 4 版, 32, 金剛出版(1987)
26. 室伏 君士：「認知症老人の理解とケア」,第 4 版, 30, 金剛出版(1987)
27. 須貝 祐一「ぼけの予防」：第 3 版 p 20, 岩波新書(2005)
28. 日本認知症ケア学会：「認知症ケアの基礎」 第三版,ワールドプランニング (2013)
29. 室伏 君士：「認知症老人の理解とケア」,第 4 版,金剛出版, 1987
30. 室伏 君士：「認知症高齢者のためのメンタルケア」：第 1 版、ワールドプランニング (2008)
31. 福祉士養成講座編集委員会編：「社会福祉士養成講座 14 介護概論」,第 2 版,中央法規 (2005)